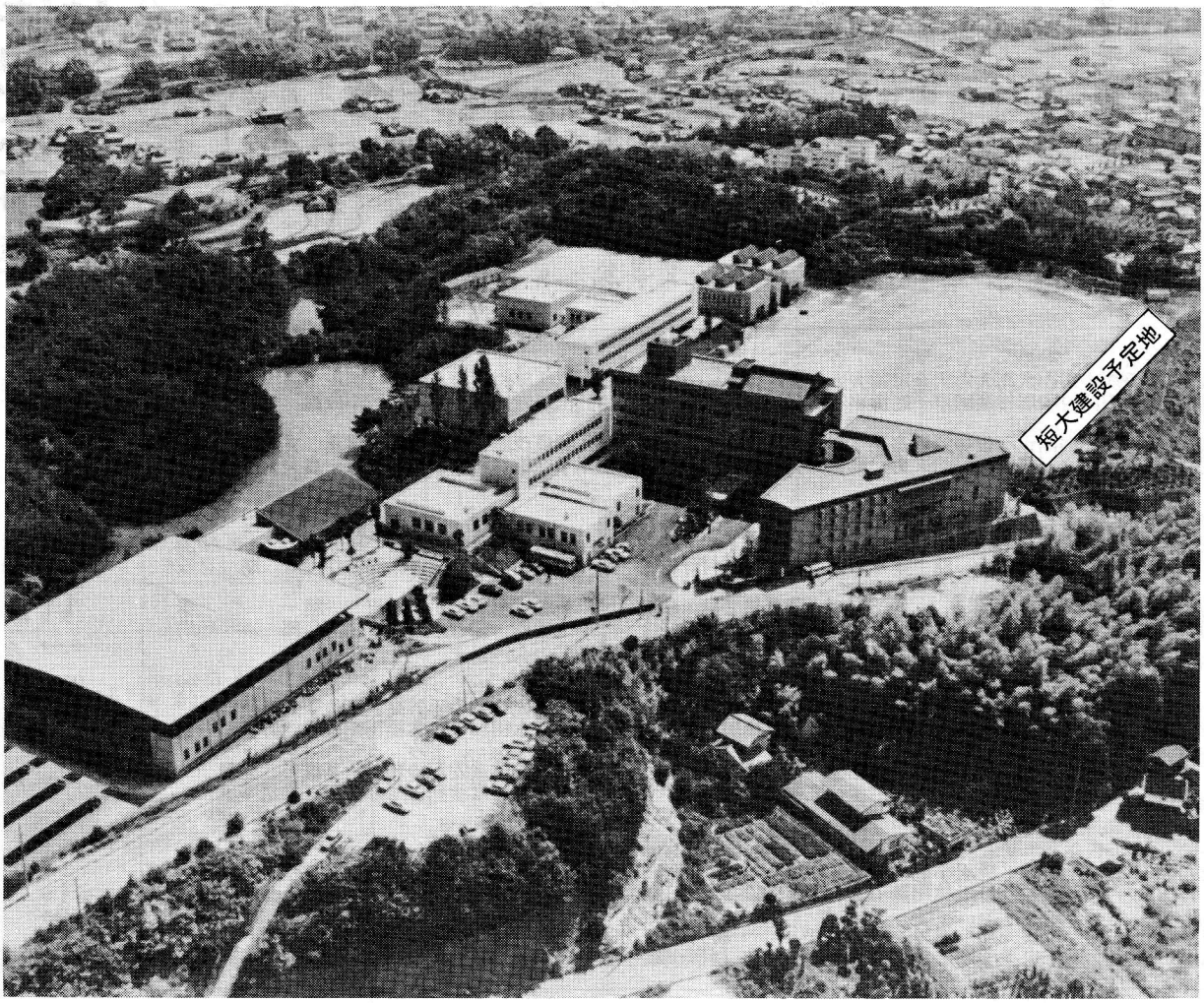
徳山大学校友会誌

第６号

発行所　徳山大学校友会
〒745 山口県徳山市久米
徳山大学学生課内
ＴＥＬ 0834 (28) 0411 (代)
発行責任者　豊岡正行
編集発行人　秋本辰己
印刷所　徳山印刷株式会社

徳山女子短期大学開校に向け始動!!

昭和六十二年四月開校予定



徳山市を中心とした周南地域の強い要望で、徳山大学に待望の女子短期大学を併設し昭和六十二年四月開校を目標に準備中である。

これは地方大学として躍進する本学が地元のニーズに応えたもので、学校法人では昭和五十六年六月頃から短大設置準備委員会を設置し、理事長を会長として、それぞれの業務を分担し地元と協議しながら開校に向けて準備を進めている。

新設の女子短期大学は、山口県内の中、高校、企業ならびに公共機関等の意見を聴取し最も希望の多かった経営情報学科を選択し二年制、二百人を総定員とし、多様化、高度化する現在の情報化社会に経営学の素養を身につけたテクノレディを養成することがねらいである。

校舎は、鉄筋四階建て、二千五百平方㍍程度のもので、女子短期大学にふさわしい近代的でハイセンスなものが、現在の運動具塚付近に徳山市より三千平方㍍の校地の無償譲渡を受けて建設される計画である。

また、文部省の設置基準によると、さらに約二万平方㍍の大学用地が必要となっているために、現在のグラウンドをサブ的に使用し、メイングラウンドは徳山市の北部、須々万地区に約三万八千五百平方㍍の用地が徳山市より一万平方㍍の無償譲渡二万八千五百平方㍍の無償貸与を受けることになっている。

このことは昨年十月の市議会全員協議会で審議されたもので、このほか女子短期大学設立について熱意をもって具現化となっている。

これを受けて本学では、カリキュラムや教授陣のスタッフ編成など、女子短期大学の具体的な教育内容を検討、審議し活発な動きが行われ、大西教授を中心にして設置認可申請書類の作成ならびに文部省担当官との事前折衝に鋭意努力中である。

いよいよ女子短期大学の設置も七月三十一日を認可申請書類の締め切りという大詰めの段階に差し掛かったと言えよう。

本学は、今年で開校十五周年、ますます地方大学としての使命も強く求められてきているだけに、この大事業に対して、校友会としても全面的な支援、協力を行っていきたい。（校友会会長　豊岡正行）

校友会十周年記念事業

徳山大学校友会
企画部長　秋本辰巳

校友会も昭和五十年春、第一期生の卒業と同時に発足以来、早いもので今年十周年を迎えました。校友会誌第五号でご案内したとおり、十周年を記念する意図より、昭和六十年度は、①同窓会の開催、②校友会名簿の発刊　③十周年記念コンサート開催等の記念事業を実施すべく企画しております。

①第三回同窓会（記念パーティー開催）

○日時　昭和六十年七月十三日（土）十五時〜

○会場　徳山市桜馬場　丸福ホテル　TEL21―五一一三

○会費　一〇、〇〇〇円

同窓会開催については、大学関係者のご出席をいただくと同時に趣向をこらした会といたしたく企画しております。ご出席いただけます方は、同封のハガキにてご返答くださるようご案内申しあげます。

②校友会名簿の作成

校友会では、十周年を記念し一期〜十一期卒業生の名簿作成を行います。校友会諸兄に必ず重宝いただけるものと存じます。

＜名簿内容＞

開学以来の徳山大学略史（10P）

校友会会則・校友会略史（10P）

卒業生（一期〜十期）名簿（150P）

学生団体・課外活動紹介（20P）

大学教職員紹介（10P）

各期の卒業生近況だより（10P）

◎名簿発刊（予定）……六月

◎名簿は…定価（送料込千円）で会員へ郵送いたします。同封の郵便振込用紙にてお申込みください。

③記念コンサート開催

日時　昭和六十年十二月一日（日）

会場　徳山市・文化会館

演奏　徳山大学吹奏楽団　市内・各小学校ブラスバンド（予定）

※尚　十周年記念事業等での詳細については徳山大学校友会事務局までお問い合わせ下さい。

校友会事務局（徳山大学内）

TEL（〇八三四―二八―〇四一一）事務局

住所不明者一覧

☆……会員

一期
海本健一　河田達雄　木村忠人　迫　文夫　☆下瀬　真　☆杉原真一　☆田中雅彦　☆谷門　明　友弘和俊　☆中島哲二　☆永谷幸正　☆原田重郎　原田正和　☆原田康作　☆平岩茂雄　☆広兼辰弘　☆宮田順子（旧姓阿久津）　森田輝己　☆柳　一正　☆吉永弥生

二期
尼崎　均　有吉計次郎　糸山英治　上岡庸晃　上田光秀　☆大谷利慧　大平　篤　岡田正己　尾崎富男　金子憲之　☆宍戸栄治　☆角田陣一　大楽俊男　高杉茂雄　武居正修　田中浩二　田村浩之　中岡　研　西方九州男　☆野村達夫　平島民夫　平松公博　深井泰男　藤岡静義　宮本　勉　村尾勝美　村上敏隆　☆山中俊雄　☆山根泰尚　☆横見　巧

三期
大庭信一郎　奥田精作　☆開作　実　☆郷原　隆　小島直子　菅原年彦　多賀谷　靖　田村明彦　中嶋　晋　藤田年巳　増田真一　三間光樹　森永和幸　吉田恭之

四期
☆石岡寛士　☆磯村秋好　上野　孝　☆木村昌錫　下窪　昇　佳村晃尚　高本芳裕　棗　茂之　林　雅人　三好新一　山肩康彦　山本啓三　☆山本伸生

五期
秋山博則　上村源一　大西守半　☆岡村　猛　境　恒夫　田口板雄　武村正実　松尾　匡　丸山良雄　三上文雄　三木豊彦　溝口　真　溝淵雅彦　向田泰代　森　司計治　和田隆志

六期
池田龍美　伊藤元幸　上野　浩　大内　学　甲斐雄二　佐藤基繕　高田　董　武田美作　高橋雅彦　谷本みゆき　手島泰利　中下安彦　野口武彦　増田啓行　光永宏恭　水野　猛　村田哲郎　森　健治　森　康紀　山田　実　和田和見

七期
明川典嗣　石橋康寿　鎌倉浩二　亀岡裕明　川井雅之　河野徳行　木村和彦　黒原哲治　後藤修司　新川隆浩　曽我部敬司　高木　敦　武村繁市　多田　学　筒本博之　津島太一　津上正彰　峠　淑文　中野研二　本田　力　山田博之　種山　宏

八期
青井俊明　安達喜美　荒木佳文

九期
有馬博之　石原昭彦　尾崎哲夫　壱岐愛一郎　神辺全一　木坂安伸　北原祐治　桑名俊二　佐々木一二　田辺雅章　谷口透月　瀧下哲也　高橋幸久　寺谷昭一　富永恭弘　橋本英範　東　裕治　福川一人　藤本昌良　藤村保彦　松岡正平　真野利雄　山田伸一　吉田秀樹　吉本勝利　井崎博明　石山良一　和泉憲明　嚴谷知晃　伊藤　修　岡田厚司　小林通匡　沼田　剛　樋口邦彦　平野一歩　福本敏也　渡辺健作

十期
安心院秀樹　姉川和憲　大野守孝　金井清弘　金子　健　下迫昌子　徳永憲昭　八重野一洋

卒業にあたって

経済学科四年　中村道陽

まだ風も冷たい頃最後の試験を終えた私は、暫し学食の前に佇んでおりました。

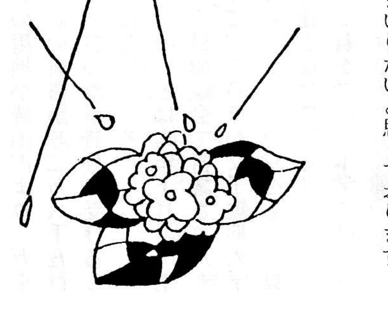
白亜の学舎管理棟前を行き交う人々、様々な服装そして表情など目に映るひとつひとつが穏やかに、何故か懐しくさえも見えてきました。その中でも一際心に残ったのは、ここから見る瀬戸の夕陽でした。大学四年間という、思い起せば、大河の流れの如く時の流れが緩やかに甦るように思えるひとときでした。

私は一年生の時ヨット部（当時同好会）へ入部いたしました。ヨットというスポーツは傍で思われている程、華麗なものではなく、一度海へ出ればもう一人の乗員と力を合わせて、たとえどんな風が吹こうとも波がこようとも、或いは転覆することがあろうとも、自分達の力で艇をおこしてはまた風に向って走っていかねばならない熾烈を極める競技でした。私はこの部の活動から、たとえどんなことがあろうとも自分の力で突き進んでいくという気構えを体得したような気がいたしました。

部に入っていたおかげでそれからの私は学校の主催される諸行事に参加する機会を多く得ることができました。大学祭やオリゼミもそうでありましたし、学年が上るにつれて、末広にそういった機会に恵まれました。参加する会合が増えれば知らなかった人と知り合う機縁となりましたし、またそこで今まで考えてもみなかったことを考えられました。

考えてみますと私の四年間は何かの社会に加わっており多忙な日々であったように思われます。しかし昨今の大学に於ける学生の実態を考える時、私はこれで良かったと思っております。無目的生活の中に於いて心の躍動をどんどん蝕まれてゆく毎日、学生のもつ本来の自由、若さも活かせぬまま日々を過しがちな中で、物事に対して積極的に肯定的にそして建設的に前向きの姿勢で気迫をもって歩んで行くという生きてゆく指針を得ることができたからです。私はこの四年間心が躍り続けていられる状態にあったことを心から感謝いたしております。

紅梅が春の雨に濡れ徐々に新しい季節の到来を感じさせてくれる頃となりました。これからの暮しの中でこの学舎でめぐり逢い語り合った人々の顔を時に思い浮べて決して恥じることのない日々を送ってまいりたいと思っております。



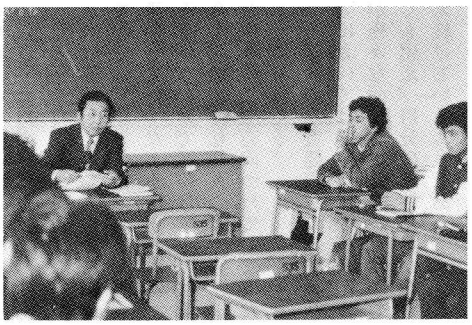
OB諸君へ

拝啓、卒業生の皆様

（教授）
佐原昌弘
（経済学史・経済史・経済思想史）

校友会新聞から私の近況報告を書いてほしいという原稿依頼があった。私は校友会事務局長（ほとんど名前だけであるが）という肩書があり、今更近況報告でもあるまいにと思ったのであるが、考えてみればこの数年現役の学生に私の関心が集中し、卒業生諸君には大変ご無沙汰してしまった。ここはひとつ卒業生諸君へ手紙代りに一筆啓上してご機嫌を伺うことにしたいと思う。

私は大学での講義のほかに学生部で学生指導の仕事にも携わっている。もっとも最近は若い優秀な先生方が学生指導の面でも積極的に活動してくれているので私の出番は少なくなったが、それでもなにやかやと頭を悩ませることが多い。そこで私はこのような問題の根本的解決として大学教育そのものの再検討が必要であると考えたのである。つまり現代の大学教育では知識を教える作業は熱心に行われているが、人間を育てる作業はまったく行われていないということである。私はそんなことから二年前より正課のなか（教養ゼミⅠ）に実践教育講座というものを作り、七人の先生方の協力をえて運営している。具体的には独居老人宅を学生が訪問し、簡単にできる力仕事をお手伝いしたり、話し相手をするなかでご老人達から知恵を学びとるなどの実践活動の他、



老人養護施設の慰問やゲートボール大会などの老人福祉や徳山市内の小学校にある留守家庭学級での先生方のお手伝い等児童福祉への実践的アプローチを行っている。

このような実践活動を正課のなかに取り入れ単位化しているのは日本でも本学だけであり、ユニークな試みとして各界の注目を集めている。特に今年度山口県のボランティア協力校に指定され若干の奨励金も頂いた。そんなわけで私も今では自分の専門外ではあるがボランティアの先生として学生に注目されている。またこの講義が機縁で徳山市の小さな親切運動の実行委員にもなった。お陰で今まで気にもとめなかった道路に落ちているタバコの吸殻を拾ったり、乗り物では率先してお年寄に席を譲ったり大変な変りようである。思えば学生時代ボランティア活動に熱中している友人に『偽善者ぶるな!!』と罵倒した自分が恥しい限りである。ともあれ私もその偽善者の一人になってしまった。これが本物になるのはいつの日か。根気よく努力を続けていくつもりである。卒業生の皆様もご健康には十分注意され、さらに一層のご活躍を期待致しております。

近況報告

（教授）
津島隆夫
（経営管理論
労務管理論）

徳山大学の卒業生の皆様御元気で御活躍のことと思います。扨て私事になりますが近況を御知らせいたします。私も相変らずではございますが、徳山大学のスタッフの一員として元気にやっております。現在担当は経営管理論、労務管理論、外国書講読、演習Ⅰ・Ⅱの五教科です。新任当初担当しておりました教養ゼミは目下もっておりません。受講生も年々漸増しまして労務管理にいたっては四〇〇名近くいます。

クラブ活動の方では、一昨年より弓道部の部長となりました。今までの様に講義を通して学生に接するだけでなく、新入部員歓迎コンパ、追い出しコンパ、試合、その他教室を離れた場での学生と接する機会がふえ、違った意味で勉強にもなりますしよろこんでいます。

また私の目指す教師像としましては、あの徳山大学の誇る名物教授森脇先生の域に達することでありますが、それは不可能でしょう。せめて先生の爪のあかでもせんじて飲んで、その域に少しでも近づきたいと思う今日この頃でございます。

みなさん お元気ですか

徳山大学にまいりまして六年目を迎えますが、その間に体育館、図書館と建設されまして、私が来た当初と比べますと目を見はるほどの変り様でございます。初期の卒業生の皆様からすれば想像を絶する変り様だと思います。ほんとうに美しいキャンパスになりました。一度ぜひ遊びに来て下さい。

ところで「消費は美徳」ともてはやされました高度経済成長時代とちがいまして、安定成長の折、卒業生の皆様にとりましては、大変な試練の時期だと思います。とりわけ徳山大学の卒業生の皆様は第一線の営業職にたずさわっておられる方が多いだけにその厳しさを肌で感じとっておられることと思います。しかしながらこうした厳しい折だからこそ営業マンとしての真価を発揮出来る絶好のチャンスだと思います。

徳山大学は創立十数年を経たとはいえ、まだまだ伝統たる大学とはいえません。一人一人がパイオニアスピリット（開拓者精神）をもって、徳山大学の卒業生としての真価を存分に発揮して徳山大学の存在「徳大O・B」ここにあり、を世間に知らせしめてほしいと思います。大いに期待しております。それではお元気で。

親と家庭教育

（助教授）
兼重宗和
（社会科教育法Ⅰ・教育実習）

わが国の家庭が、徐々に変化していることはだれもが認めよう。核家族の増加により、家族の成員は夫婦と子ども二人が標準化し、祖父母と孫が一緒に暮す家庭は少なくなり、子どもが体験する人間関係の種類は限定される。夫と妻の力関係もかつての亭主関白とか夫唱婦随にかわって、対等の友人のような夫婦が多くなってきた、また働く母親の増加も最近の特徴であり、母親の手作の夕食を家族そろって食べる光景も少なくなり、俗に家庭の下宿化、ホテル化といわれる傾向がみられる。また、サラリーマンの家庭が多くなり、父親の働いている姿を子どもは知らない。生活にゆとりができ、子どもが少ないため、親は教育に力を注ぐ。そして、知的発達のいい子ども、即ちテストの成績のいい子がいい子どもとされる。その反面、〝ダメな親〟も少なくないようだ。

文部省は戦後初めてこうした親のために、家庭教育の手引書を発行した。文部省家庭教育資料「現代の家庭教育―乳幼児期編」（四〇〇円）である。まさに現代の親に対する文部省の親心と言える。本書には家庭における父親の役割が強調され、男性諸君も一読の価値がある。内容は、総論に家庭教育をめぐる状況変化を説き、次に①乳幼児期の成長発達と理解②親の留意点・配慮事項③地域社会と子どもの成長発達の三章から構成され、親として最低限必要な知識をイラスト入りで載せてある。発行の意図は、放任、基本的生活習慣・忍耐心・責任感の欠如などの問題に対し、親が親となるために家庭教育の適切な学習が必要であるからだ。〝ダメな親〟は如何にすればよいか、例えば本書の「好ましい叱り方」に次の如くある。(1)叱ることは教育的効果を考えてのことであって、親の私情の発散であってはならない(2)すぐその場で叱ること(3)叱る以上、何故それがいけないかの理由を子どもに理解させる(4)同じことを二度以上叱らない。

本書は家庭教育の基本的事項を取扱っており、これを参考に諸君の各家庭の情況にあった教育を創意工夫して頂きたい。子どもの発達にとって幼児期・児童期の家庭教育の内容、その質は決定的意味をもち、二度と繰返せない。しかも、子どもは親を選択できないのである。

O・Bだより

（二期生）
中山　剛

早いもので二期生として卒業から九年の時が経過してしまった。それは大学在学中の四年間に比較するとなんとなく空虚な時の流れのような気持ちがしてくる。

それだけ実社会より短期間な生活でしかないはずの学生々活が私に何か言いようのない強いインパクトを与えたように思われる。

我々が入学した折は上級生としては一期生の存在しかなく、何んとなく心許無い気がしていた。

大学というものは入学すれば先輩四年生まで厳然としたある意味の階級が存在し、しかしその中で自由な自分の受け入れられる環境で楽しむ事の出来るイメージを勝手に想像していたためだったからだ。

しかし現実はそのイメージとは違い、何をやるにも全くレールは敷れてはおらず多くの学生がクラブ活動、学生会の運営等を研究し学ばねばならなかった。

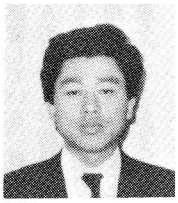
そういう全てが未完成の中で少しずつ学生の心の中にあるものが生まれてきたように思われる、それはある意味では結果であり、もっと大きな意味では建学の精神であったかもしれない。

私もその結束の名のもとに入学早々強制的にラグビー部に入部させられるはめになってしまった。あまり運動能力に優れているとは言えない私にも入部の勧誘があった事からも多くの学生のエネルギーを何かに費やさねばならないという気運が強く感じられていた。

この事は大学教職員の方々も同様であり、未だ大学の気風というものは出来上がっておらず、様々な気質の学生が何をやるべきかイメージをさかんに抱こうとしていた時であったため、教職員の方々の指導も非常に多面的な努力を強いられていたように思う。

このようなある面ではアンバランスな集団が発足し、次第に結束を強くし、建学の精神へと情熱を湧かしていったように思われる。そういう一途で純粋な学生時代を今から思えば私個人の考え方、また生き方まで方向づけてしまったようにも思える。

合理性のみ重要視される現実社会においては学生時代の不合理さが様々な面で心地好くまた懐かしくも思え、自分の感性に何かを訴え続けているようである。



（二期生）
小坂　稔

十年の歳月とともに、ポプラの木は、りっぱに成長をとげていた。

先日、新卒者の求人説明会に大学に出向いたとき、学内を見学させてもらい、その成長に目をみはり、我々の卒業からの月日の経過を感じた。

四年間一緒にすごした仲間達は今、それぞれ仕事を持ち、又家族を持ち、責任の一番重い時期にさしかかろうとしている。

そういう事からか、仕事中心で、付き合いもついつい職場を通じてのものとなってしまう、久しぶりに会った学友と話をしていても、〝こいつだいぶ仕事で悩んでいるな…〟とか感じる時があり、昔は笑ってばかりですごしていたけど、これが人生のはじまりで、生きる事といえばオーバーかもしれないが、その事のつらさも感じはじめている今日、この頃である。

そんな折、実家に帰り、仕事をしている友達より、手紙をもらい、今の生活を知らされ、昔、一緒に遊んだ事など書き添えられると、徳山大学の事をなんともいえないくらい、愛着を感じてしまう。

社会の荒波でもまれる中で、私は大学の事をよりどころにしているし、又歴史のない大学だけに我々が社会で頑張り通し、その出身校の名をアピールしていく事が我々卒業生の後輩、大学に対する恩返しだと思っている。

幸い、今では、同じ会社、職場にも、同窓生がいる様になり、どこにおいても徳山大学を見る目は、期待感に満ちたものに変りつつある事だけは確かである。

まだまだ、ポプラの木は伸び育っていくであろう、我々も又それと同じ様に今からは、苦しい事ばかりかも知れないが、そんな時、ポプラの事を思い起こし、又場所を変え、一生懸命、歴史作りをしている同窓生の事を思いだし、大いに社会で奮闘しようではありませんか。

そのエネルギー確保の為、同窓会には皆で参加し、楽しい時をすごすのも、徳山大学の卒業生でないとできない事ですよね。

（十期生）
脇坂　泰史

初めに、卒業生を代表しまして、この場で紹介させていただくことを、私は大変光栄に思っております。

私は昭和五十九年三月卒業いたしました。第十期生の脇坂泰史と申します。現在、広島市内の医療総合商社、ケンコー産業株式会社に勤務しております。ケンコー産業㈱は、広島県を中心に、山口、江津、岡山など、中国随一の販売会社でございます。武田薬品を中心に一〇〇社以上の一流メーカーと直結し、又、医療機器、ワクチン等多数の商品をそろえて皆様の健康、安心して薬をお使いいただけるよう日夜努力しております。

年々医薬品におきましては、皆様ご存じの通り、大変注目を浴びていますが、実際のところ「秋から冬の時代」に突入しようとしております。昨年の十月より、患者に対しての一割負担をはじめ、医療費全体が値上りし、病院離れの傾向が目立って、医療品もその影響をうけ、直実に、ここ一年横バイの傾向になってきています。それだけ今はきびしくなってきたと言ってもおかしくはないでしょう。

その状態の中入社した私は、厳しいながらも得意先に大変かわいがっていただいています。しかし、中には話も聞いてもらえない得意先や、会っていただけないところもありますが、毎日充実しています。学生時代に空手をやっていたせいか、根性だけは他の会社の人たちに負けていないと思っています。特に先生から、失敗しおこられた時など、再度アタックする精神が自然出て、つくづく「クラブ活動をやってよかった」と思ったこともあります。又、酒の場など、学生時代にならしておりましたので、毎日のように誘いがかかってきます。このように楽しいだけではありません。毎日が他の卸会社と、商品の奪い合いで、時にはケンカをすることも珍しくありません。「薬」というものは、世間体からみると、華やかに見えますが、実際には、あくどい商売だと最近思ってまいりました。学生時代は、ろくに勉強もしなかったが会社に入ったとたんに、薬に関する知識を埋めこまされ、毎日のように勉強会が開かれます。そのせいか、ある程度の商品知識、体の構造等、他人に説明出来、少々の病気でも自分で直します。この世界に入ったせいか、休日も祭日もないぐらい忙がしく、一ケ月先のスケジュールまで出来ています。暇を見て学校に顔を出そうとしましたが、なかなか時間が作れません。卒業してからも、やはり我が母校は大変気になるものです。少々無理をしてでも、皆んなと会える機会を作ってほしいと私は思います。心から母校を応援してあげて下さい。

昭和五十九年度
退職者

（停退）
山本　武夫
徳山大学教授
環境科学
外国書講読Ⅰ
ゼミⅠ・Ⅱ

（依退）
佐久間　敬
徳山大学助教授
数理経済学
金融論
演習Ⅰ・Ⅱ

（依退）
横山　克己
徳山大学助教授
国際経済論
経済地理学
経済時事英語
外国書講読Ⅱ
演習Ⅱ

課外活動

陸上競技部

中・四国学生駅伝……五連覇！

中・四国大学の王座を巡って健脚を競う師走恒例の第二十八回中国四国学生駅伝競争大会は、十二月二日、山口市民会館前を午前九時スタート、防府市右田、佐波郡徳地町を回り山口市の中国新聞社前をゴールする六五・六キロのコースで十六大学二十三チームの参加によって開催された。第二十四回大会より四連覇を続けている本学は、A・B2チームが参加した。

中国新聞の戦前の予想では「徳山大Aと福山大との争い」であったが徳山大Aが終始トップでタスキをリレー、独走でみごと五連覇を達成、徳山大Bチームも素晴らしい健闘をみせ、最終六区、二位の島根大を抜き二位でゴール、二年ぶり二度目の一・二位独占であった。

選手層の厚い本学陸上部の連勝記録は当分続きそうである。

第28回　中国・四国学生駅伝　S.59.12.2

全日本大学駅伝……十七位

本学陸上部は、中・四国代表として今年一月二十日に開催された第十六回全日本大学駅伝に出場した。当日は、小雪の舞う最悪のコンディションの中、全国各ブロックより二十大学が参加して行われた。熱田神宮―伊勢神宮七区間一〇八キロのコースで午前八時スタート、大学日本一を競うレースが展開された。本学は、中・四国駅伝で活躍した主将の稲永選手及び主力選手二名が体調を崩し出場できず後輩選手の活躍に期待したが、昨年のコースの変更等が重なりタイム五時間五五分、十七位の成績でゴールした。過去連続四回の成績から今年は、十位入賞を目標に頑張って来ただけに主力選手三名が抜けたのは陸上部にとっては誤算であった。しかしながら、今回の若い選手の出場は良い経験になったものと思われ来年の全日本大会活躍に大いに期待したい。

（過去の全日本大学駅伝成績）
等十二回…十二位　第十三回…十五位　第十四回…十四位　第十五回…十四位

59年	59年度主な活動状況
1・2	第34回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会出場～6日（1回戦明治学院大学と対戦22対12で敗れる）
1・21	寒　行（光市虹ケ浜）
1・22	第15回全日本学生駅伝対抗選手権大会出場
4・1	文化体育連合会委員長脇山真信（剣道部）
4・21	リーダースキャンプ（～22日、湯野芳山園）
5・23	第9回体育祭
6・2	全日本学生柔道体重別選手権大会出場（～3日）
7・2	カリフォルニア州選抜レスリングチーム来学（～5日、4日親善試合）
7・6	全日本学生剣道選手権大会出場
7・11	全日本学生テニス選手権大会出場
7・29	日本正剛館全国空手道選手権大会・団体優勝
8・27	全日本学生レスリング選手権大会出場（～30日）
9・1	全日本学生柔道優勝大会（～2日）
9・8	フレッシュマンキャンプ（～9日光市光青年の家）
10・4	全日本学生陸上競技対抗選手権大会出場（～7日）
10・11	第1回昼休み大運動会（連続球技大会）（～12／9日）
10・12	全日本学生剣道優勝大会出場（～14日）
10・31	第6回吉田松陰を訪ねる会―萩往還を行う
11・9	全日本学生柔道選手権及び東西対抗戦出場
11・16	第10回内閣総理大臣杯全日本大学レスリング選手権大出場（～18日）
12・2	全国学生合気道演武大会出場
12・2	第28回中国・四国学生駅伝優勝
12・5	文化体育活動表彰式
60年	
1・2	第35回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会出場（～6日）
1・19	寒行（光市虹ケ浜）
1・20	第16回全日本大学駅伝対抗選手権大会出場

昭和59年度文化体育活動表彰

最優秀賞

	氏名・サークル	理　由
個人	陸上競技部 近藤正勝（4年）	第38回中・四国学生陸上競技選手権大会走幅跳1位　85年アジアユニバーシアード最終選考会に残る

優秀賞

	氏名・サークル	理　由
団体	レスリング部	西日本学生レスリング春季リーグ戦　優　勝
	陸上競技部	第38回中・四国学生陸上競技選手権大会総合優勝（私立大学では初）
	空手道部	正剛館学生空手道選手権大会4連覇
	ラグビー部	全国地区対抗大学ラグビー大会出場
個人	硬式野球部 寺田文俊（3年）	中国六大学野球春季リーグ戦　敢闘賞受賞
	硬式野球部 渡辺克志（3年）	中国六大学野球春季リーグ戦　ベストナイン受賞（一塁手）
	硬式野球部 瀬脇啓介（1年）	中国六大学野球春季リーグ戦　ベストナイン受賞（三塁手）
	硬式野球部 問可明男（4年）	中国六大学野球春季リーグ戦　ベストナイン受賞（外野手）
	硬式野球部 森田敏博（3年）	中国六大学野球秋季リーグ戦　ベストナイン受賞（遊撃手）
	硬式野球部 最上貴美（1年）	中国六大学野球秋季リーグ戦　ベストナイン受賞（外野手）
	硬式野球部 福地　修（2年）	中国六大学野球秋季リーグ戦　最優秀選手賞、ベストナイン受賞（投手）
	硬式野球部 胡井正信（3年）	中国六大学野球秋季リーグ戦　春秋ベストナイン受賞（二塁手）　秋首位打者賞受賞
	陸上競技部 上田和生（4年）	第38回中・四国学生選手権大会　円盤投　1　位
	陸上競技部 北村信也（1年）	第38回中・四国学生選手権大会　800m　1　位
	陸上競技部 米田　修（3年）	第38回中・四国学生選手権大会　100m　1　位（中・四国新記録）
	陸上競技部 田中秀明（1年）	第38回中・四国学生選手権大会　200m　1　位
	陸上競技部 西川　広（4年）	第38回中・四国学生選手権大会　3,000mS－C　1　位
	陸上競技部 田中、近藤、尾崎、米田	第38回中・四国学生選手権大会　4×100mR　1　位（中・四国新記録）
	陸上競技部 新宅利章（2年）	第38回中・四国学生選手権大会　走高跳　1　位
	レスリング部 足立　渉（4年）	西日本レスリング選手権大会グレコローマン74kg級　優　勝
	レスリング部 国広幸信（3年）	西日本レスリング選手権大会フリースタイル57kg級　優　勝
	レスリング部 表　正光（3年）	西日本レスリング選手権大会フリースタイル62kg級　優　勝
	柔道部 船井正史（3年）	中・四国学生柔道体重別選手権大会95kg以上　優　勝
	柔道部 山本竜正（3年）	中・四国学生柔道体重別選手権大会78kg以下　優　勝
	柔道部 上田賢治（4年）	中・四国学生柔道選手権大会　優　勝
	剣道部 前田幸誠（4年）	中・四国学生剣道優勝大会　優秀選手賞受賞
	剣道部 八塚玲治（4年）	中・四国学生剣道優勝大会　優秀選手賞受賞
	軟式野球同好会 辻　誠（3年）	西日本地区大学軟式野球秋季リーグ戦　最優秀選手賞受賞
	軟式野球同好会 石本公宏（4年）	西日本地区大学軟式野球秋季リーグ戦　優秀選手賞受賞
	軟式野球同好会 馬場良介（4年）	西日本地区大学軟式野球秋季リーグ戦　ベストナイン受賞（補手）

特別賞

団体	写真部	各団体の試合の撮影及び写真展を行う　写真集「わがまま」出版
個人	弓道部 山田信和（4年）	全国で十数人（大学）の五段取得者に入る
	柔道部 西出大作（4年）	59年わかくさ国体に出場
	レスリング部 友森五郎（1年）	59年わかくさ国体に出場
	バスケットボール部 浴本浩文（4年）	59年わかくさ国体に出場
	バスケットボール部 猪俣健司（4年）	59年わかくさ国体に出場
	自転車同好会 山口俊正（2年）	59年わかくさ国体に出場
	自転車同好会 岩朝達彦（4年）	59年わかくさ国体に出場

去る12月5日に本学812教室に於いて、59年度文化・体育活動表彰式が行われた。（表彰者は上記の通り）

最優秀賞は、全国的規模の大会において、優秀な成績を収めた者が対象となり、団体では、残念ながら、該当無しという結果だったが、個人では、陸上競技部近藤正勝君（4年）が各大会に於いて優秀な成績を収め、現在85年アジアユニバーシアード最終選考会に残っていることが表彰の対象となった。

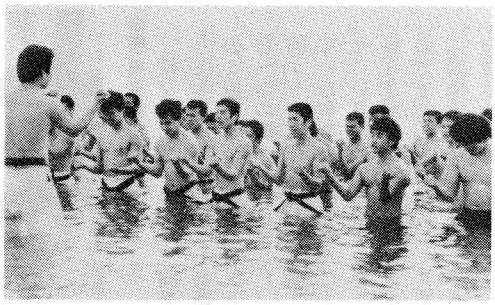
優秀賞は、中・四国の大会に於いて優秀な成績を収めた者を対象とした。

特別賞は、上記以外の大会等で、その功績が特別表彰に値するものを対象とした。中でも弓道部山田信和君（4年）は、大学生としては、全国で十数人という五段高段取得者に入った事が注目される。

又、今回硬式野球部は、個人優秀賞では表彰を受けているが、中国六大学野球秋季リーグ戦で優勝したが、全国大会がなかったために、小規模大会とみなし、優秀団体賞の対象からはずした。

今年度を振り返り、体育系は例年になく多くの表彰者を出すことができたが、文化系については、いま一つ努力を期待したい。今回表彰された団体・個人の皆さんはもとより表彰されなかった方々も今後もよりいっそうの健闘を祈る!!

（学生部）



文化体育連合会寒行S.60.1.19

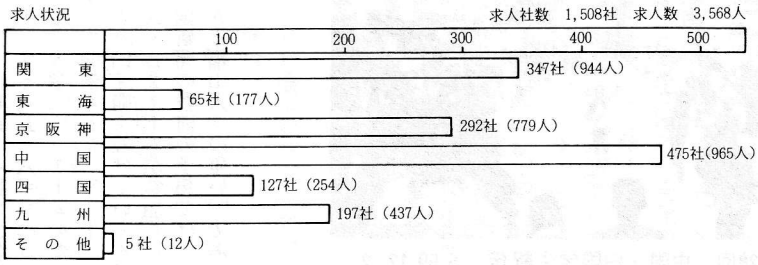
就職情報

資料　9—①

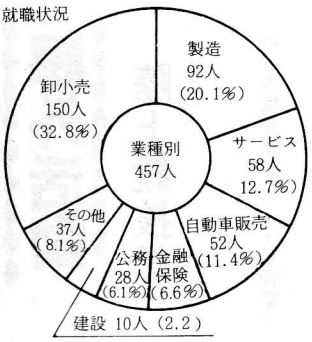
昭和59年度就職内定状況

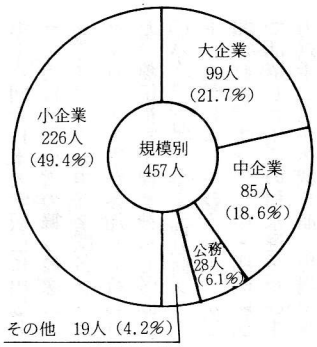
就職希望者数	463人
〃 内定者数	457人
〃 内定率	98.7%
求人社数	1,508社
求人数	3,568人
求人倍数	7.70

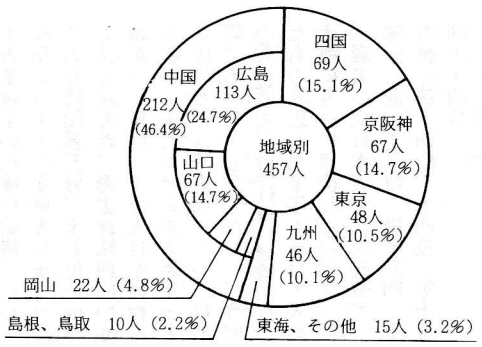
求人状況　求人社数 1,508社　求人数 3,568人



就職状況







（今年度の求人状況）

昨年の5～6月頃から各社の人事担当者が本学へ求人案内されるのを契機に求人ムードが盛り上がり、夏休みともなると就職課へ求人票が送り込まれさらに、各地で業界研究会などが開催され、また、就職情報会社からのD・Mや会社案内などが、波のように押し寄せて一応、舞台が出来上った。

いかにも好調な求人状況と思えるが現実は厳しい。当初、景気回復に明るい見通しがなされつつも、内外を取りまく環境は極めて厳しく産業構造の転換、情報化社会の進展、地方の時代、国際化問題など、多くの要素を背景とした産業界の現状は実に厳しい状況下にあるといえた。したがって、求人においても少数堅実型採用であるからしっかりした人物の選定に厳しい目を向け、これと思う学生との接触はいく度も繰り返すなど慎重な求人活動が伺えた。

本学に対する求人の七〇%強は中企業で、しかも大半が営業職であるから求める人材に対する企業の期待感も大きく、今後の社運をかけての求人戦線であったともいえる。

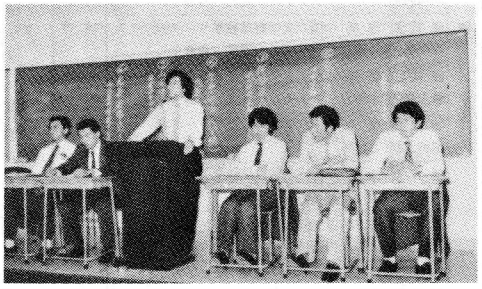
とりわけ、優良企業ほど少数精鋭主義に徹し経営体質強化を推進しているので、求人面でも数・質の両面で厳しい選考がなされた。

特に人間性が問われ、基本的な礼儀、態度挨拶、言葉使いなど、性格的には、信頼性、約束を守るか、意欲、根性、協調性などが評価項目となった。つまり、これらは常識程度の基礎学力もさることながら、社会人、企業人としての心構えを備え、使える人物であるかを見るものであった。以上のような状況であるから志望先を突破する学生は大変であった。

就職体験発表会

（就職状況）

四五七人の進路・就職先を一社ずつ見ると、多方面へと様々であるが、全般的には優良堅実企業への増加を感じる。また、帰郷就職者は六五%と毎年強まりを見せている。地元でしかも安定した職場を目指しているから、求人・求職活動を一段と難しくさせている。大半の者が公務員に合格すれば一番満足するのであろうが、ともあれ今年度もほぼ就職が決まってほっとしている。今回で十一回目の卒業生を各方面に送り出すが、各企業や卒業生の皆様方の温かいご指導を得て、今まで大むね順調な成果を続けており、将来への見通しについても本学の歴史とともに確固たる就職の基盤が築けるものと確信しております。



OB懇談会（先輩からのアバイス）

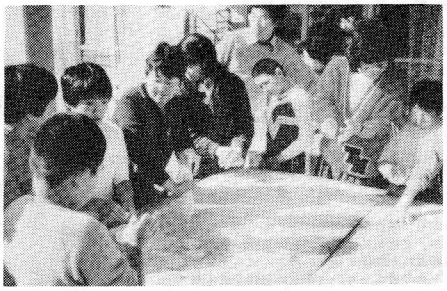
街角の仄かな灯

また年の瀬のあの興奮がやってきた。

今年で十一回目になる歳末恒例モチツキ大会である。ちょうど二期生の光風寮生が始めた行事で、ささやかにほのぼのと、大学の丘の向こう、鼓ケ浦学園で学生と園生の交歓会がそれである。

最初はかまえた活動であったようにも思う。モチ米をポリバケツ二、三杯もつけてつき切れなくて、寮の下級生が持ち帰って翌日細々とついたり、腰をぬかして寝込んだりと失敗も多い。確か六回目で雨が降り、中庭でモチツキということになりカマドの火が消えて三～四ウスで終わりにしたこともあった。

最近はモチツキそのものの楽しさも去ることながら、皆で楽しむソフトボール対抗試合が圧巻である。体が不自由ながらも一生懸命のプレイに学生も圧倒され、ついエラーも続き敗戦もあった。車イスの園生のバッティングは豪快でもあった。いろいろなクラブ団体が参加をして自らの交歓にもなっている少林寺拳法部の演武、光風寮生の遊戯、フォークソングクラブの歌など、学生のボランティアの一コマである。後の反省会で、ある学生は「大学に来て、まさかこんな良いことが出来るとは思わなかった。また園生の人なつっこさと純粋な一挙手一投足に感激し、自分も一生懸命青春を過したい。」と感涙にむせんで発表することもあった。小さな親切の生んだほのかな感動でもあった。



餅つき大会（鼓ケ浦整肢学園）

※原稿募集

校友会誌は、現在年二回発刊しております。前回より教職員のご協力をいただき「O・B諸君へ」の欄をもうけました。今回より、現在各企業で活躍されている卒業生の欄をもうけました。OB諸氏の活躍ぶりをこれからどんどん紹介していきますのでよろしくお願いします。

（原稿千字程度、写真タテ5㎝ヨコ3㎝）